2001年の汗・涙・笑顔

猛暑が続いた二〇〇一年夏。運動部に所属している学生たちは、西日本医科学生総合体育大会（以後、西医体と略す）に向けてひたすら練習を重ねた。西医体は運動部最大の試合である。

今年度、西医体は53回目を迎え、競技種目20種目30競技、参加校44校、参加人数約一八〇〇〇名を数える大きな大会となった。7月29日から8月12日に開催され、佐賀医大生はこのうち13種目に参加した。

今年度の総合順位上位校は、1位宮崎医大（446点）、2位金沢大（310点）、3位産業医大（289点）となった。佐賀医大は前年度12位であったが、今年は10位（263点）へ順位を上げた。

西医体に次ぐ大会として、九州・山口医科学生体育大会（以後、九山と略す）が春に開催されている。今年は競技種目19種目、参加校12校、参加人数約五〇〇〇名で、3月31日から5月6日にかけて行われた。九山は、今年、第40回を迎えた伝統のある大会である。

佐賀医大生はこれら九山、西医体で数々の成果を上げた。以下に、九山、西医体における佐賀医大の結果を載せる。☆印では、各部活で九山、西医体を通して最も輝いていた人について紹介している。また、個人戦の成績は各部活まとめて、左下に掲載した。

●サッカー

九山　4位

西医体　準優勝

●野　球

西医体　準優勝▽一回戦13―6、二回戦9―5、三回戦8―1、四回戦8―0、五回戦6―2、決勝戦6―9。

☆医6年諸隈宏之
守備では、チームを救う多くのファインプレー、打撃では多くのヒットを打ち、最も活躍した選手。「チームが勝ったことが、一番うれしかったです。今後は新チームがもっと強くなっていく姿を見守っていきたいです。」と後輩たちへ激励の言葉を送った。

●バスケットボール

九山　男子優勝、女子優勝▽【MVP】6年染矢晋佑・吉岡万智子【ベスト5】(男子)4年陣内宏紀、3年江頭秀一(女子)5年大塚康子、3年片山さつき

西医体　男子ベスト16、女子3位▽【ベストディフェンス賞】&【ベスト5】6年吉岡万智子

（ボート部）左から植川、三根、兒玉、松永、烏山、樋渡

●ボート

九山　男子準優勝　魁偉クルー4年植川顕・兒玉和久・樋渡敦・三根大悟、2年烏山和之

西医体　男子3位　魁偉クルー同右▽遠賀川特有の高波の中、決勝に進出した6艇がほぼ横一線でスタート。後半に強い魁偉は、500メートル過ぎから力尽きたクルーを一つずつ抜いて見事3位入賞。

●水　泳

九山　男子総合4位、女子総合優勝▽女子リレーメンバーの看1年山口真以、医2年木下麻悠子、看3年久富佐知子・真崎芙美は、大会新記録で、200メートルメドレーリレーと200メートルフリーリレーの二種目を制覇した。

☆医6年野崎俊光
100メートルバタフライで自己ベストを出し、4位入賞。最も練習熱心で、大会でその結果を出すことができ、涙を流した。その姿に後輩達も感動！

西医体　(男子)400メートルメドレーリレー5位、800メートルフリーリレー6位

●バレー

九山　男子ベスト8、女子準優勝

西医体　男子ベスト16、女子ベスト8

●弓　道

九山　男子5位、医学科女子5位、看護科5位

西医体　男子4位、女子5位

☆医1年梶原正貴
個人戦一次予選、二次予選通過。決勝射詰では、会場が静まり返るほどの白熱した試合を繰り広げた。そして、堂々の3位入賞。

●テニス

九山　男子4位▽一回戦は〈佐賀医5―1産業医〉で快勝、二回戦は〈佐賀医5―2大分医〉と勝利を収め、歴代二回目のベスト4入りを果たした。

●ヨット

西医体　スナイプ級18位、470級13位、看護科4位メンバー3年大西賀子・坂本陽子・佐藤寛美

●ラグビー

西医体　▽前年度3位の実績で、二回戦から出場。初戦は島根医大に33―7と大勝。三回戦は神戸大と戦った。後半残り5分まで一進一退の攻防を展開していたが、トライを許し、0―10で涙をのんだ。その神戸大は今年の優勝校となった。

●柔　道

西医体

☆医1年井上友香
個人戦で五連続一本勝ち。しかも短時間でほとんどの勝負を決めていった。決勝では試合中に脱臼し、1位の座を惜しくも逃した。「今回は2位で悔しかったので、次回は1位目指して頑張ります。」と語った。

●バドミントン

九山　▽団体戦、個人戦ダブルス、シングルスとたくさんの試合をこなすハードスケジュールだったが、疲れも見せず、接戦を勝ち進んだ。

☆ダブルス看3年田中麻美&宮本真美
互角の戦いで、ファイナルセットまで持ち込み、精神的に追い詰められながらも優勝をつかんだ。

●卓　球

九山　男子7位、女子6位

☆看1年藤本智子
九山初参加でダブルスとシングルス、共にランク入り。「団体戦で勝てるように頑張ります。」と今後の意気込みを語った。

●剣　道

西医体　男子ベスト16

●陸　上

九山　男子1500メートルに参加。

●空　手

流派によるルールの違いから、九山、西医体には参加していないが、6月24日、関東地方中心の十数校の大学が参加する大会で、優秀な成績を上げたので紹介する。

関東大学空手選手権
準優勝　メンバー【6年岩永学・岡本純明・廣滝慎太郎・吉村怜、5年田中達也】

各部活の代表者の皆様、ご協力ありがとうございました。（坂本）

個人戦成績

●水泳　九山〔男子〕100メートルバタフライ2位&50メートルバタフライ3位：野崎俊光(医6)／100メートル背泳ぎ3位&50メートル背泳ぎ3位：中原信一(医6)　〔女子〕200メートル自由形1位木下麻悠子(医2)／100メートル個人メドレー2位久富佐知子(看3)／50メートル平泳ぎ2位宮崎美智子(看4)／50メートル背泳ぎ2位冨岡志保(医6)／50メートル自由形3位真崎芙美(看3)　西医〔男子〕200メートル背泳ぎ2位&50メートル自由形3位：中原信一(医6)／100メートルバタフライ4位野崎俊光(医6)　〔女子〕200メートル自由形3位&400メートル自由形5位：木下麻悠子(医2)／50メートル背泳ぎ4位冨岡志保(医6)

●バドミントン　九山　医学科女子3位尾形美穂(医6)　看護科ダブルス1位田中麻美(看3)&宮本真美(看3)　看護科シングルス2位宮本真美(看3)　西医　医学科女子9位尾形美穂(医6)　看護科女子5位宮本真美(看3)

●柔道　九山　男子軽量級4位下川建(医2)　女子4位井上友香(医1)　西医　女子2位井上友香(医1)

●弓道　西医〔男子〕3位梶原正貴(医1)／5位&優秀射技賞：桑代卓也(医2)　〔女子〕3位竹之下ふみ(医3)／優秀射技賞：坂本佳子(医4)

●ボート　西医　女子1位松永朋子(看2)

●卓球　九山　女子ダブルス3位藤本智子(看1)&江口尚子(医2)　女子シングルス3位藤本智子(看1)／5位江口尚子(医2)／9位高原翔子(看2)／9位坂本真紀(医3)

●空手　新人戦、女子大会　組手優良賞：坂谷安紀(看3)、山﨑朋美(看3)／型敢闘賞：古川由梨(看2)、山﨑朋美(看3)

＊（　）の中の数字は、学年を示している。

（柔道部）左から井上、下川

（弓道部）左から桑代、竹之下、梶原

Mudskippers
第2号
2001年10月発行
佐賀医科大学
〒849-8501
佐賀市鍋島5丁目1番1号
http://www.saga-med.ac.jp/
新聞編集委員会
印刷／㈱昭和堂

留学生紹介　焦（ジャオ）先生

今回は、夏休み明けということで、留学生の先生方に、夏についていろいろと伺ってみました。

中国上海医科大学から来られた焦先生は佐賀に来て三年半。現在消化器外科で、発癌や癌の浸潤・転移についての研究をされています。来年は、アメリカへ研究のために行かれるそうです。そんな先生に、日本の夏についてお聞きしました。

夏といえばなんですか？

「旅行！あと海で泳いだり、子どもと一緒に遊んだり。」

先生は大の旅行好きのようで、二年前の夏には、佐賀から東京までご家族と一緒に車で旅行したそうです。日本の半分以上は制覇したと話す先生も、北海道にはまだ行った事がないそうです。「是非行きたい。」と北海道上陸にも意欲を見せておられました。そんな焦先生ですが、今年の夏は何をされましたか？

「今年は、ずっと皆と一緒に研究をしていました。」論文を書き終え、今は他の留学生にも実験を教えたりされています。

佐賀の夏はどうですか？

「上海よりは、朝晩が涼しいです。上海はビルが多いから一日中暑いんですよ。」

夏バテはしませんか？

「最近は、エアコンがあるからねぇ。（笑）」

妙に納得させられます。先生の将来の夢は？

「佐賀医大と上海医大とが姉妹校のように交流できたらいいなと思います。私が、その架け橋に少しでもなれたらと思います。」

文化交流の面にもとても関心を持たれていて、県の文化交流にも積極的に参加されています。

データ

＊焼き魚が大好き。釣りたての魚はまさに絶品とか。でもやっぱり納豆はだめ。

＊佐賀医大＝きれい

左から焦先生、元副学長堀先生

PEOPLE NOW

留学生紹介　アスラム先生

バングラデッシュから来られているアスラム先生。佐賀に来られる前は、薬学部の先生をされていました。現在は微生物学教室で、リウマチ様動脈炎の研究をされています。佐賀に来てもう四年。来年は、バングラデッシュの大学に戻るかも知れないそうです。先生にも日本の夏について聞いてみました。

日本の夏とバングラデッシュの夏、どちらが暑いですか？

「同じぐらい。日本と似ています。でも、やっぱりこっちの方が湿気てるね。」

バングラデッシュにも夏祭のようなものもあるそうです。でも盆踊りはないとか。今年の夏は、何かされましたか？

「三日ほど福岡の友人に会いに行きました。でも、あとは研究が忙しかったです。」

福岡にはよく行かれるそうです。福岡のバングラデッシュ人はほとんどご存知だそうです。でも今は、論文を書くので大忙しです。先生の将来の夢は何ですか？

「そうだなぁ。できれば今の研究を続けていきたいですねぇ。でも先のことは、状況によりますから。」

医大生へのメッセージ

「achieve your goal!!」

データ

＊普段は日本食をバングラデッシュ風にアレンジして食べるそうです。用いるスパイスの数、なんと八種類以上。東京から取り寄せるそうです。

＊佐賀医大＝Natural

自然溢れるところが素晴らしいとのことでした。（安達正）

アスラム先生

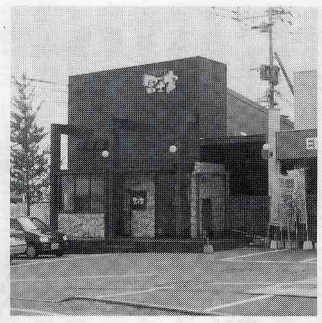
天山おろし

ある新聞の教育欄に、学生が教官に求めるものとして、「学問の夢を語ってほしい」というのがあり、はっとさせられた。「わかりやすい講義」「シラバスの充実」など技術ではなく、大学教育の本質が含まれていると感じたからだ。いままで「夢を語ってきただろうか？」、と反省しきり。そういえば、私が学生の頃は、夢を語りかける教官がいた。講義の合間に、あるいは実習の時に教官がふと漏らした言葉、それが学生の進路を決定したということはよく聞く。夢を語るとは、いままでに得た知識と経験をもとに「一生を託すに足る仕事を語り伝える」ということかもしれない。夢を持った学生が目標を抱いて勉学に励む、というのが夢の実現に至る理想的な過程であろう。爆発的な知識技術の増加に対して、それを習得するためのいろいろな教育学習方法が研究開発されている。これらが重要であることは論を俟たないが、学生が求めているものは、そして求めるべきものはその一歩先にあるものではないだろうか。目標を持ってこそ、学習の成果は血肉となる。夢の伝達は、書籍や電子媒体からでも可能だろうが、微妙な息遣いや迫力の伝達は人と人との接触によるしかない。理念を喪失した社会の風潮に流されて、語るべき夢をもたないことは恥ずかしい。大学教官として、社会人として、夢を語れるようになりたい。（木本）

ここがうまいよ 医大生！

やきにく 冨士家

このコーナーでは筆者が独自の偏見でおいしいと思うお店を紹介します。第二回の今回は、「やきにく冨士家」さんに取材に行きました。



「やきにく冨士家」さんは昨年の六月末にオープンした、落ち着いたムードの焼肉屋さんです。このお店の特徴を筆者が挙げるとすれば、第一に飲み物が安い。ビールやチューハイが毎日一杯二〇〇円。(四月からのサービス期間中。いつまで続けるかは未定だそうです。)これは隣の酒屋「あんくる・ふじや」さんと同じ系列だからできることでしょう。

第二に食環境に凝っているということ。「カンテキ」という七輪に似たものに紀州備長炭を入れて、その上にのせた網で焼いて食べるという方法。炭火は遠赤外線が多いので火が中まで通るのに加えて、灰(アルカリ性)は焦げ(酸性)ができても中和するので、美味しい焼き加減になるそうです。「炭で焼くとけむりが……」と思われるかもしれませんが、心配には及びません。直上の換気扇が全て吸い取ってくれます。(ちなみに煙が出すぎて目が痛い時は目薬をかしてくれるそうです)網も店員さんがこまめに替えてくれます。また、掘りごたつなので膝も伸ばせます。

第三に食材に凝っているということ。料理長いわく「佐賀ではホルモンを分類して出している店がほとんどない。」冨士家では細かく分類された多種のホルモンが単品・もしくは盛り合わせで楽しめます。きっと初めて口にするものもたくさんあると思います。もちろんホルモンはすべて国産なので、噛めば噛むほど深い味わいです。キムチは大阪の鶴橋(全国的な焼肉屋の密集地)から取り寄せている、辛くておいしいキムチです。

やきにく冨士家には会員制度もあり、それを利用するとさらにおいしいお食事になりそうです。

料理長から医大生へ一言「勉強と遊びと頑張ってください。」

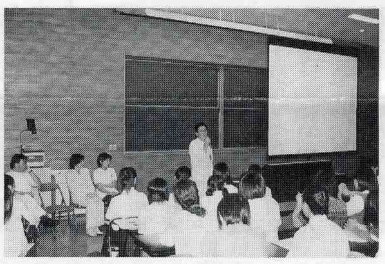
住所　佐賀市鍋島町八戸溝一五七―一(あんくる・ふじや北部店横)
電話番号　〇九五二(三〇)五八七三

(藤井宏)

オープン・キャンパス開催される

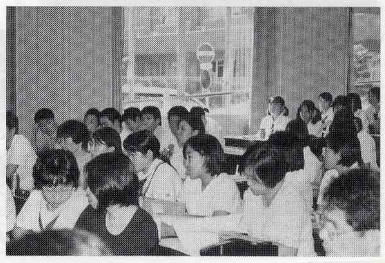
佐賀医科大学大学説明会、通称オープン・キャンパスが8月1日に行われ、県内外から約四〇〇人の高校生、及び保護者、進路指導の先生方が参加した。

午前中はフリータイムということで、参加者は自由にキャンパス内を見学していた。午後からは臨床大講堂で具体的な大学側からの説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていた。



医学科の紹介で話をされた病理学の戸田助教授は、基礎医学の重要性、奥深さ、応用性の広さについて説き、「佐賀医大に来て夢をつかまないか。」と熱く語っておられた。

続いて学科ごとに別れて入試に関する説明、学生による学科紹介が行われ、学生による学科紹介では、参加者もリラックスした様子で学生生活全般の事について質問をしていた。しかし中には救命救急について鋭い質問をする参加者もいて、医療従事者になる事への関心の高さが伺えた。



こうした機会をどんどん活用して、将来についてとことん考えてほしいと感じた。夢と希望に燃えた学生が、来年度もたくさん入学して来るだろうと期待してしまう、そんな一日であった。

(荻原)

警告します

本学の学生で、学外に違法駐車をしている者がいます。

特に医大西団地近辺からは、住民の方から頻繁に苦情が来ています。

今後、駐車している学生を見つけた場合、大学としては厳重な注意、または処分をすることとしますので留意するように。

一人で悩まずに相談を

本学では「佐賀医科大学セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」を設けると共に、相談員を決めて、セクシュアル・ハラスメント防止に努めています。規程は「学生生活のしおり」に、相談員は各学年の掲示板に掲示しています。気になることがあれば、一人で悩まずに同相談員、チューター、学生課等に相談してください。

科研費 大幅な増加！

本年度、佐賀医大の教官が獲得した科学研究費補助金(略して科研費)は図に示すように一億三千万円近くと過去最高となりました。二年連続で一億二千万円を超えています。

科研費とは優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として、特に重要なものを取り上げ文部科学省が研究費を助成するものです。

つまり、研究者に与えられる勲章のようなものです。この科研費をどれくらい貰っているかということは、その大学を評価する目安の一つとなっています。

これらの科研費を使って、佐賀医大の教官・大学院生がますます立派な研究業績を挙げ、来年はもっと多くの科研費を貰えることが期待されています。(資料は庶務課大学改革推進係の白井由美さんからいただきました。木本)

学生課コーナー

ジェットストリーム風合格体験記

内科研修医一年目　南里悠介

『卒業旅行もクライマックスに入り、今、私達がいるのはトルコのみでなく世界で最も美しい都。互いに抱擁するように腕をのばすアジアとヨーロッパの二大陸に跨がる世界で唯一の都。地球を魅力的で神秘的に飾る歴史の宝庫、そう、ここはイスタンブール……。

佐賀医大での青春の一ページって、地球の歴史からするといったいどれくらんなんだろうっ(モー娘入ってる!?)ふとそんな気分になり街の灯を見ながら、筆をとることにしました。

この6年間は本当に本当に楽しいものでした。部活、学祭、ボクシング、ミス医大、後輩がお好み焼食べたいと言えば広島に、白クマ食べたいと言えば鹿児島にFTOを飛ばし、ハワイ大学では本場のPBLを体験でき、想い出は数知れず。

でも時間が無くても幸い再試を受けることなく卒業でき、結構多くの後輩の方々から勉強法をきかれることがあったので、これから書くことが、少しでも後輩の皆さんの参考になれば嬉しく思います。

1年から4年までは、授業の一コマにつき3つは大事な項目を抜き出し、B4用紙にまとめ、(通称「南プリ」として活用してもらったもの)過去問を解く前に全体が把握出来るようにしました。そして、例えば神経系の場合、「南プリ」の変性疾患と過去問のそれを黄色に、脳血管障害なら赤色に、といった具合で色分けし頭の整理をし、どの分野の割合(色)が多いか、視覚的に理解して勉強していました。勉強とは「複雑なものを簡単に、簡単なものをより深く」していくことが大事だと思います。とくに講義は多くの先生にして頂くため、自分が混乱しない工夫がいると思われます。

5年の頃はプレ卒中心に勉強しましたが、「時間をかけたことは無駄にしない」ことに気を付けました。6年で国試前にも、「あープレ卒に出てたなぁ」と思い出せるよう、「イヤーノート」や「病態生理できった内科学」に、プレ卒で出たことは全て青の蛍光ペンで塗りました。そして内科以外の科目も100%シリーズやチャートに全て色塗りし、「何をプレ卒で勉強したか」思い出せるようにしました。

6年では、学祭前までに国試の臨床問題をまず終わらせ、卒試前に一般問題、卒試3年分、プレ卒を1年分解いて試験に臨みました。最近の卒試は、国試に配慮された問題が多く国試をまず解き、足りない知識を卒試の過去問で補充するよう進めました。

国試に関しては、①禁忌肢をふまない②必修問題80%確実 get③一般で負けず臨床でかせぐ。その為に何を工夫すべきか考えました。そして必修問題、禁忌肢問題が採用された、91〜94回国試を解いてみると、前年度の一般問題から翌年の必修問題が作られている、という傾向があったため、90〜94回の5年分と5回、暗記する程解きました。実際94回の禁忌肢から95回国試に出ていたりと、方法としてはよかったと思います。

あと模試について。僕らが受けた95回から国試は回収になり、絶対評価より相対評価の要素がますます強まります。僕は毎回模試前に計画を立て、今回は内科臨床を、今回は小児・産婦の偏差値を特に上げる、という具合に漫然とではなくテーマを決めて勉強し、成功したらその勉強法を憶えておくようにし、うまくいかなければ何が足りないか成績表から分析し改善していきました。

相対評価になってくる為、「人が選びそうな答えを選ぶ」感覚は大事であり、何人かで勉強会をし、皆がどう考えて選択しているのか理解するのは、有効な手段の一つだと思います。

その他、細かな勉強法については、いつでも内科病棟に尋ねて来て下さいね。

最後に研修医の立場から一言。学生のときに、もっとしとけばよかったと思うのは英語とパソコンの勉強！医大は退院サマリーを含め、全てがコンピューター管理のため、僕はものすごく苦労しています。また、神経内科の黒田教授はマイカーに乗せて「南里、またうまくなったよ」と言いながら、NHKラジオ英会話を勉強されていました。文献をはじめいろんな情報を得るのに、本当、英語は大事だと働いて痛感しています。そして最も言いたいこと。それは、学生のときは講義など「与えられた」情報の中で物事を整理し、理解を深めればテストに関してはクリアできます。しかし現場は違います。今僕は神経、血液の病棟で働いていますが、患者さんが神経・血液疾患以外にも、循環器、呼吸器、消化器・婦人科などの疾患がないか自分で見つけ出し、解決していく力、いわば問題作成能力がもの凄く必要です。学生の時は言葉では理解していましたが、働き始めて患者さんへの全責任を負うことにより実感しています。例えば血液の患者さんがナディア(※この時、白血球減少により感染しやすい)に入っている時、痔核を患者さん本人から教えてもらえず危うく敗血症を引き起こしそうなこともありました。そういう意味で、学生のうちから、与えられたこと以外にも好奇心をもって取り組み、常になぜそうなるのか、と考える積極性を鍛えておくこと、これが大事なのではないでしょうか。

では、後輩の皆さん、後は限りある学生生活を悔いが残らぬよう、精一杯楽しんで人生の糧にして下さいね。学祭や部活で知り合った先輩がコンサルトDrだったため仕事がスムーズに進むことも沢山あり、人と人とのつながりは本当に大事です。そして、5年生以下の皆さんは、今から一発勝負を前に努力している6年生に、メールなんかでもいいから、沢山応援の言葉かけてやって下さい。僕も去年、随分励まされ、がんばってこれましたから。

そうこうしているうちにいつの間にか街の灯は消え、千年の歴史の溶け込んだ闇が静かに舞い降りてきました。明日のブルーモスク見学に備えそろそろ筆を置こうと思います。それでは皆さん、おやすみなさい。ジェット・ストリーム…。

トルコ・ヨルダン12日間の旅　日本特殊旅行　27万8千円より』

編集後記

長い夏季休暇も終わりましたが、皆さんはどのように過ごされましたか。

さて、「佐賀医科大学新聞Mudskippers」の初刊を5月に発刊しましたが、記事中の「ここがうまいよ医大生！」については、クーポン券が取れない、お店(あんだ亭)の場所が分からない(店から住所は記載しないようにして欲しいとの申し出があっていた)とのお叱りの声もありましたが、新聞の内容・構成が大変良かったと好評だったので編集委員一同「ホッ」と安堵しました。

高い評価を得たことで編集委員会も意を強くし、第2号は、「外部の声」「OBの活躍」「夏休み体験」などの新たなコーナーを設け、紙面も倍増して2枚の見開きと内容の充実を図りました。木本編集委員長をはじめ各編集委員が夏休み返上で頑張ってくれたこと。また、いろいろな提案を戴いたことも組み入れましたので、第2号も良い出来上がりと自負していますが、如何でしょうか。

今回いろんな提案を戴きましてありがとうございました。これからも皆さんからの意見・要望・提案・感想などを組み入れ、より充実した内容の新聞にしたいと思ってますので宜しくお願いします。

(副島)

編集委員
木本　雅夫教授(編集委員長)
池田　豊子助教授
棚町　豊二(フォトセンター)
松本　哲　副島　政弘
石丸　將敏　荻原　一剛(学生課職員)
小松　信俊　坂本　佳子
藤井　可　藤井　宏行
市川　雅子　稲富万里子
安達のどか　安達　正時(学生)
要望等の連絡先
教務部学生課総務係　荻原
メール　ogihara@post.saga-med.ac.jp

クーポン券
ソフトドリンクまたはビールを御一人様1杯無料！
本券1枚につき2名様まで御利用可
期限　平成13年10月末まで(土日祭日を除く)